

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)刈谷市立特別支援学校建設等工事	階数	地上3F
建設地	愛知県刈谷市小垣江町白沢36	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年6月22日
敷地面積	32,753 m <sup>2</sup>	作成者	(株)加藤建築事務所
建築面積	2,294 m <sup>2</sup>	確認日	2006年6月23日
延床面積	4,531 m <sup>2</sup>	確認者	加藤 知徳



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.6  
Q2 サービス性能: 3.1  
Q3 室外環境(敷地内): 2.1  
LR1 エネルギー: 3.2  
LR2 資源・マテリアル: 3.6  
LR3 敷地外環境: 2.9

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	2.6
温熱環境	2.6
光・視環境	3.8
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.0
耐用性	3.1
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	3.6

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.0
効率的	2.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

地球温暖化	3.2
地域環境	2.7
周辺環境	2.9

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>10.2 %</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0 %</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>3.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; 檜台形集成材 (カウンターに使用)</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3-1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2-2 耐用性・信頼性、Q-2-3 対応性・更新性  
LR-2-2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3-1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3-2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 ハリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり								
2 空間の形状・自由さ								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性								
2 給排水管の更新性								
3 電気配線の更新性								
4 通信配線の更新性								
5 設備機器の更新性								
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	2.1
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.5	0.30	-	-	3.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				5.0	0.50	-	-	
				2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								
<b>LR1 エネルギー</b>								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>lm</sub> =0.77		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.20	-	-	2.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI <sub>lm</sub> =0.87		4.0	1.00	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>								
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-	-	2.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>								
<b>1 水資源確保</b>								
1.1 節水		自動水栓や節水型便器などを採用		4.0	0.40	-	-	3.4
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>								
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>								
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	集成材・家具、OAフロア:床、人工木材:デッキ		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	GL工法のため分別が容易であり設備との雑絡はない、OAフロア		5.0	0.24	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.3	0.22	-	-	3.3
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>								
1 消火剤				3.0	0.32	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ノンフロン断熱材を採用		3.5	0.68	-	-	
3 冷媒				-	-	-	-	
				4.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>								
<b>1 地球温暖化への配慮</b>								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:95%		3.2	0.33	-	-	3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>								
<b>2.1 大気汚染防止</b>								
2.1 大気汚染防止				2.7	0.33	-	-	2.7
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>								
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>								
1 雨水排水負荷低減	独自			2.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
				1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>								
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>								
1 騒音	独自			2.9	0.33	-	-	2.9
2 振動	独自			3.0	0.40	-	-	
3 悪臭				3.0	1.00	-	-	
				-	-	-	-	
				-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>								
1 風害の抑制				2.6	0.40	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	0.60	-	-	
3 日照障害の抑制				1.0	0.20	-	-	
				3.0	0.20	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>								
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない		3.7	0.20	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				4.0	0.70	-	-	
				3.0	0.30	-	-	

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)刈谷市立特別支援学校建設等工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:10.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>3.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	檜台形集成材(カウンターに使用)

### ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 刈谷市立特別支援

計画上の配慮事項	
総合	障害のある子どもと障害のない子どもが共に学び、交流し、理解し合える環境を造りだします。 既存の小学校と併設という特徴を最大限に活かし、単独に整備された特別支援学校では難しい、学校生活全般を通したさまざまな「ふれあい活動」を実施します。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用や全館禁煙化など、空気質環境に配慮した計画としています。
Q2 サービス性能	建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりをもたせ、対応性・更新性に配慮した計画としています。
Q3 室外環境(敷地内)	屋外照明の設置などにより、建物外部の防犯性に配慮した計画としています。
LR1 エネルギー	外皮の断熱強化により、建物の熱負荷抑制に配慮した計画としています。 また、LED照明の採用等により、エネルギー消費量の削減に配慮した計画としています。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓・泡沫水栓や節水型便器などを採用し、水資源保護に配慮した計画としています。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、地球温暖化に配慮した計画としています。
その他	—